



▲県生涯スポーツ推進中央大会、  
第16回町民体育祭（昭和62年）

## 主な出来事

| 元号（西暦）      | 主なできごと                                                                                                 |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和55年（1980） | 4月 大浦保育園を開設<br>7月 本町出身の鈴木善幸衆議院議員が第70代内閣総理大臣に就任                                                         |
| 昭和56年（1981） | 3月 新図書館車「はまなす号」が発進<br>4月 山田町斎場が完成                                                                      |
| 昭和57年（1982） | 3月 山田小学校が閉校<br>4月 山田南、山田北両小学校が開校<br>9月 鈴木善幸総理大臣が郷土入り                                                   |
| 昭和58年（1983） | 3月 織笠小学校轟木、外山両分校が閉校<br>4月 轟木小学校が開校<br>5月 飯岡土地区画整理地内の住居表示を実施、新町名「長崎」<br>10月 山田郵便局新局舎が完成<br>県立山田高校新校舎が完成 |
| 昭和59年（1984） | 4月 山田健康音頭を制定<br>6月 防災行政無線の放送開始<br>中央コミュニティセンターが完成<br>7月 本町出身の瀬川正義（ボクシング）、<br>牧野孝喜（馬場馬術）両選手がロス五輪に出場     |
| 昭和60年（1985） | 11月 アワビ漁が3年間全面禁漁<br>10月 山田町合併30周年記念式典を開催。千葉県山田町、長野県上山田町と姉妹都市締結。タイムカプセルを埋設                              |
| 昭和61年（1986） | 4月 住民記録のオンラインシステム業務を開始<br>中央公民館が完成<br>5月 陸中海岸山田八景が決定<br>6月 「ふる里山田同郷の会」が誕生<br>7月 船越家族旅行村がオープン           |
| 昭和62年（1987） | 11月 アワビ漁4年ぶりに解禁。58年の2.4倍の漁獲量                                                                           |
| 昭和63年（1988） | 3月 IWCによる商業捕鯨の規制とともに山田の捕鯨の歴史に幕<br>4月 マリンパーク山田がオープン<br>9月 本町出身の瀬川設男選手（ボクシング）がソウル五輪に出場                   |

▶山田町合併30周年を記念してタイムカプセルを埋設（昭和60年）



◀直径118㌢、  
内容積800㌢のタイムカプセル

あの  
とき



タイムカプセルの  
メッセージを書いた

伊藤 尚生さん  
（大沢・35歳）

山田中学校3年の時、生徒会長だったことから、担任の先生からメッセージを書くように頼まれました。誰に宛てて書いたのか忘れましたが、当時の学校の様子を書いた記憶があります。当時は何のために書いたのか分かりませんでしたが、役場に就職して初めてタイムカプセルの存在に気づきました。昭和60年の合併30周年の記念行事の一環として行ったもので、カプセルの中には当時の生活の様子が分かるあらゆるものが入っているそうです。開封は2035年3月1日とのことで、あと30年後になりますが、町の様子はどのように変わっているのでしょうか。その時まで山田の豊かな自然が残っていてほしいですね。そして開封する時には立ち会って、50年前の中学生当時に振り返ってみたいものです。



鈴木善幸総理を一目見ようと  
役場前（旧山田小学校敷地）  
に町民8,000人が集まった



▲第1回山田ビーチフェスティバル  
（昭和56年、前須賀海水浴場）



▲「ふる里山田同郷の会」設立総会  
（昭和61年、東京都）



鈴木善幸総理の郷土入り（昭和57年）



▲マリンパーク山田がオープン（昭和63年）

昭和五十五年七月に本町出身の鈴木善幸衆議院議員が第七十代内閣総理大臣に就任して以来、町民の待望久しかった総理の郷土入りが五十七年九月六日、ようやくかなえられました。祝賀大会会場となった旧山田小学校跡地には、総理の晴れ姿を一目見ようと、到着予定の何時間も前から詰め掛けた八千人の町民で、広い会場は埋め尽くされました。総理一行は沿道での多くの歓迎に応えるため徐行し、約一時間遅れて会場に到着しましたが、総理の乗った車が会場に現れると大きな歓声と万歳の声が沸き起こりました。祝賀大会では、木下禎治町長が歓迎のあいさつを行った後、総理に山田町名誉町民第一号の称号が贈られました。祝賀大会終了後には旗行列が行われ、児童生徒や各種団体など大勢の人と小旗の波が町内を行進。その後同会場で祝賀芸能大会が開かれ、町は祝賀ムード一色に染まりました。

鈴木総理が郷土入り